

令和3年度 丹波縄文の森塾10日目(2月19日)

令和3年2月19日(土)に10日目の縄文の森塾を開催しました。今回、新型コロナウイルス感染防止のため、昼食はせずに午前中のみのプログラムとし、里山にある小枝やドングリなどを使ってストラップ(チャーム)や写真立てなどを作りました。

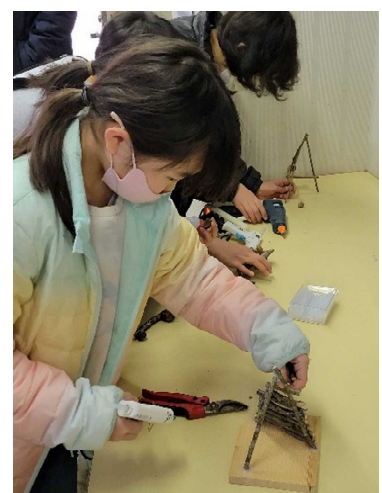
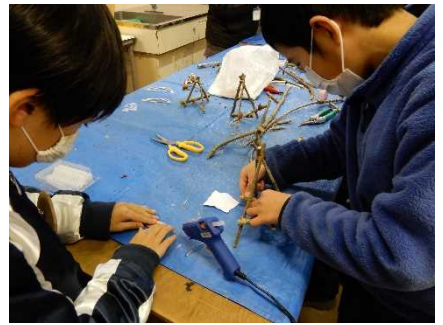
まず、里山で材料集めです。里山にはクヌギ、コナラ、ウメやヤマボウシなど、様々な種類の木の枝が落ちています。その中から太さ、長さや形を選び剪定鋏で切り取ります。材料を十分集めたら部屋に戻り、山崎 春人先生(通称:マリオ)の指導で作品づくりに取りかかります。

最初は、鉛筆型のストラップづくりです。少し太めの枝を3~4cm程度に切って、鉛筆削りで先を尖らせ、ポスターカラーで色を付けて鉛筆の芯の部分にします。そして反対側にキリで少し穴を開け、そこにヒートン(頭がドーナツ型になったネジ釘)をねじ込み、紐を通して輪を作って完成です。色とりどりの可愛いストラップが出来上がりました。

続いて、フォトスタンドづくりです。15~20cm程度の小枝3本の先を輪ゴムで縛り、3本足で立つ形にします。そして、そのうち2本の足の下数センチのところに少し太めの枝を輪ゴムで縛り、写真を置く台を取り付けます。最後にもう1本の足の部分と写真台の部分を別の枝を縛り3本足をしっかり固定します。あとは、ドングリや色々な木の実などでトトロやリスなどの飾りを作り、それを取り付けて可愛い写真立ての出来上がりです。中には写真立てではなく、リスとその小屋、飛行機、Y字型の枝とゴムでパチンコを作って遊ぶ塾生もありました。これまで縄文塾で色んな道具を使ってきたこともあり、この日も剪定鋏、グルーガン、小刀、ポスターカラーなどを上手に使いこなし、なかなか面白い発想で作品づくりを楽しみました。



里山で材料集め



小枝やドングリでクラフトづくり